

○ 本校の概要

○学校規模 児童数338名・12学級・教員数19名
 ○校内研究 思考を深め、伝えあう力を高める算数科・道徳科
 児童が「根拠をもって学習に向かえるよう、既習事項をもとに学習を進めることができるよう授業を構成し研究を進める。また、友達と考えから自分の考えを深めることができるよう、学び合う時間の確保や話し合いの形態、方法を研究した。
 ○今年度58周年を迎えた。昨年度は学校施設全面改築を終え、砂地の校庭で体育を行ったり、休み時間は元気がよく遊ぶ児童が多い。今年度完成の芝生の校庭は、児童の憩いの場となっている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	コメント
プラン1 生きる未来社会を創造的に生	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもを身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成を図っている。	年度末児童アンケートの「授業のときはいつもがんばっている」で「とても思う」「思う」と回答した児童の割合	4: 90%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	これまでに、本校児童の実態を踏まえた授業改善プランを作成し、そのプランに沿った授業づくりを行ってきた。外国語教育指導員と担任が連携を図り、コミュニケーションを中心とした外国語への関心と親しみ、会話力、異文化への関心を向上させた。今年度は、昨年度以上に担任が中心となり、授業を進めることができ、教員の意識も非常に高まった。 また、学習カルテを活用し、児童一人ひとりの学習方法について個別に指導を行ってきた。ICTは日々の学習の中で効果的に活用され、どのクラスでも児童の興味関心を高めたり、学習内容のスムーズな理解につながった。体力の面については、学校の決まりとして25分休みには必ず外に出て体を動かして遊ぶことを徹底した。今年度から解放した芝生児童にとって心を開放して遊ぶようになった。多くの教員が外に出て共に遊ぶこともできた。学習指導員による、個別学習を行い、集中して学習に取り組む時間を設け、習熟度の向上に努めた。	英語教育・コンピュータ教育と教員に多くの努力が求められています。頑張ってください。 努力をしている様子はよく理解している。もう少し頑張ってください。東京はとても良い環境にあります。子どもたちを少しでも多く外で遊ぶ大切さを指導してください。 校庭改修も終了し、校庭利用や芝生開放で児童が生き生きと過ごしているように感じます。授業ではICTの活用が増え、効果が出ていると思います。 新しい取り組みは大変良いと思いますが子ども一人一人がついていけるような取り組みをお願いします。 休み時間学校の通りを歩きます。多くの子どもたちと先生が遊んでいるところを目にします。私たちの子どもたちも先生と一緒に遊んだ記憶がありません。一緒に遊べることはとても良いことだと思います。先生方のご苦労とてもよく分かります。ありがたいことだと思います。
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	年度末児童アンケートの「授業中勉強がよくわかる」「わかる」と回答した児童の割合	4: 90%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	大田区の学習効果測定の結果をもとに、児童の実態を踏まえた授業改善プランを作成し、全教員がプランに沿って授業づくりを行ってきた。 また、学習に困難を感じている児童については、土曜授業日に補習を計画し、学習指導員、専科教員も含めた全教員が指導に当たった。その際、学習サポートも活用し、個別の学習状況に合わせた指導を行った。その結果、年度末児童アンケートの「授業中勉強がよくわかる」との問いに「わかる」と回答した児童の割合が92%であった。また、「授業中に集中している」と回答した児童の割合が82%と昨年度より増えた。さらに定着するよう低学年から徹底を図っていく。 「先生の話や友達の発表のときは相手の目を見て最後まで聞いていますか」との問いに対して肯定的な回答が減ったもののまだ2割ある。ここを肯定的な回答にできるようにしたい。今後は、人として仲良く、気持ちよく生活していくために欠かすことのできない規範意識の育成を柱とした学級経営を確実にやっていく。 また、保護者へもこの実態を具体的に知らせ、家庭教育との両輪で児童の育成にあたるようにしていく。 さらに学校という組織として全教職員が共通認識をもって、指導体制を構築・確立させていく。	個々の進度に合わせた指導を心掛けてください。 一人一人に目を向けてしっかりと指導されています。学校側の対応はしっかりされているかと考えますが、帰宅してからの予習、復習は今どうなっているのでしょうか。実践するか否かで学力の差が出ると思います。 家庭学習について格差があるように思われます。学習意識と共に家庭学習への働きかけも継続して欲しいです。 先生方のご苦労大変よくわかりますが、学習が苦手な子どもたちを底上げするのが一番大事なことだと思います。これからもよろしく指導のほどお願いします。
プラン2 児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	年度末児童アンケートの「きまりを守って生活していますか」で「きちんと守っている」と回答した児童の割合	4: 90%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	児童の間で起こる問題に対して、迅速な対応ができる体制を作った。複数の教員が児童に対応することや、児童の情報を共有する機会を毎週とり、学校全体で組織的に解決を図ることができた。また、大田区の学校生活調査やいじめ防止アンケートなどの結果を有効に活用することで、さらに児童理解を深めた。問題に対しては保護者にも迅速に伝え、電話ではなく直接面談すること、具体的な方策を共に考え解決を図ることができた。 学級経営においては、東六スタイルの徹底を図り、継続して規範意識の向上にも努めてきた。「きまりを守って生活していますか」の問いへの肯定的な回答が82%と昨年度より増えた。さらに定着するよう低学年から徹底を図っていく。 「先生の話や友達の発表のときは相手の目を見て最後まで聞いていますか」との問いに対して肯定的な回答が減ったもののまだ2割ある。ここを肯定的な回答にできるようにしたい。今後は、人として仲良く、気持ちよく生活していくために欠かすことのできない規範意識の育成を柱とした学級経営を確実にやっていく。 また、保護者へもこの実態を具体的に知らせ、家庭教育との両輪で児童の育成にあたるようにしていく。 さらに学校という組織として全教職員が共通認識をもって、指導体制を構築・確立させていく。	「ダメなことはダメと言え人に育てて欲しい」 今、社会は家庭教育について問題化しています。全部(全家庭)とは限りませんが、朝食を食べずに登校する児童が多いと聞いています。東六小は何%くらいでしょうか。地域で協力できることがあれば教えてください。 身体的な理由もあるかもしれませんが、きまりを守れない少数の児童の影響が全体に見られる気がします。補助教員の増員や専門家の協力が必要ではないかと思えます。先生方の負担を減らすよう、施策を検討いただきたいです。 小学生の時の教育が一番人間構成に大事な時期と思います。よろしくお願いします。	
	算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	年度末児童アンケートの「きまりを守って生活していますか」で「きちんと守っている」と回答した児童の割合	4: 90%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	学習指導員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	学年末児童アンケートの結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	問題解決的な学習を取り入れ、児童が主体的に学習をし、学習の過程や結果について対話を行うことができる授業を取り入れる。
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心を大きくみまします。	年度末児童アンケートの「早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	年度末児童アンケートの「早起き・朝ごはん」を意識した生活ができていますか」で「できています」「ほぼできています」の割合	4: 90%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	体方向上に向けて、スポーツタイムを今年度も2学年ずつ週3回、継続して組み込み体方向上を図った。サーキットトレーニングも取り入れ、つなげなければならない体面を意識した。水泳指導期間を6月初旬より9月中旬まで最大限活用できるように計画し実施した。 6月と11月の「早起き・朝ごはん」の取り組みについては、保健室前に頑張りカード(全児童分)の集計を掲示し実態をつかませる工夫をした。朝ごはんについては改善。今後は「早寝」についての課題克服に取り組んでいきたい。そして取り組み終了後の継続という点において、児童への指導と共に、保護者への啓発を行い、心身ともに健康な生活習慣の確立を目指していく。	体育館・プール・校庭とすばらしい施設になったので、児童の体力も向上するでしょう。 食事を摂ることにより、脳の活性化を図ります。食事をしない(朝食)ことにより学力低下にもつながると考えます。 学校はいろいろ取り組んでいただいているが、家庭での取り組みが、なかなか難しいと感じます。 子どもたちのためにいろいろな取り組み、挑戦と続けてほしいです。 朝ごはんを食べない子供がいるのがとても気になります。地域でも何とかならないか考えております。学校と協力しながら前向きに進めたいと思います。
	学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	年度末保護者アンケートの「子どもたちにとってわかりやすい授業を行っていた」で「あてはまる」「おおむねあてはまる」の児童の割合	4: 90%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	算数科の校内研究を重点教科として取り組み、授業改善を進めるとともに、教員の授業力改善に努めた。また、昨年度まで継続して研鑽を続けてきた「特別の教科道徳」については、年間3回の研究授業を組み込み、今までの成果を生かした記録冊を作成できた。道徳ノートでの児童の記録は年間35回の授業の確実な実践を通じ、児童の学習意欲も向上している。児童の研鑽に充てるのが日常化できている。また、算数科・理科・社会科については、教材の工夫など、教材研究でのOJTも盛んに行われるようになり、授業づくりの工夫が活発になり、児童にとってわかりやすい授業を行うことができるようになった。 また、ICT機器の活用にも注力し、多様な活用方法を検証し、授業に生かしていきたい。次年度のプログラミング教育への準備も進めていく。 保護者へのアンケートでは、「子ども達にとってわかりやすい授業を行っていた」という肯定的な回答が91%と昨年度と同程度の評価であった。今後も各教科の学力の定着に視点を置き日々の授業改善を継続する。	分かりやすい授業は児童には楽しいものですね。 三年生から始まった「総合的な学習の時間」の学習に福祉があると聞いておりますが、東六小はありますか。社会変化と共に少子高齢化時代を迎えています。必要なことは進めていただきたい。 先生方の校内研修やICTの活用方法を検証等授業改善の努力がすばらしいと思いました。 いろいろな工夫しながらの授業、ありがたい事と思います。継続をお願いしたいと思います。
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	年度末保護者アンケートの「子どもたちにとってわかりやすい授業を行っていた」で「あてはまる」「おおむねあてはまる」の児童の割合	4: 90%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	健康管理や体力向上に関心をもち、25分休みの外遊びやスポーツタイムの充実を図り、体を動かす習慣をつける。
	健康的な生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	年度末保護者アンケートの「子どもたちにとってわかりやすい授業を行っていた」で「あてはまる」「おおむねあてはまる」の児童の割合	4: 90%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	年度末保護者アンケートの「子どもたちにとってわかりやすい授業を行っていた」で「あてはまる」「おおむねあてはまる」の児童の割合	4: 90%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。
	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	年度末保護者アンケートの「子どもたちにとってわかりやすい授業を行っていた」で「あてはまる」「おおむねあてはまる」の児童の割合	4: 90%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的な情報を発信する。	年度末保護者アンケートの「学校は地域・保護者に対して、丁寧に「あてはまる」「おおむねあてはまる」と回答した保護者の割合	4: 90%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。
	地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	年度末保護者アンケートの「学校は地域・保護者に対して、丁寧に「あてはまる」「おおむねあてはまる」と回答した保護者の割合	4: 90%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能